

平城宮テーマパーク 2020年6月30日フェイスブック記 河田克博さんと一緒にいます。

平城京テーマパークの「史跡の上の復元建造物は往時の姿を体感できるから、史跡の価値を広く知らしめることが出来る。」は、名古屋城の天守木造化への唯一のうたい文句でもありました。

テーマパークの楽しさ「舞台の登場人物になりきる」にほど遠かったのは、ポツンポツンとある単体のレプリカを外から見上げるだけだからでしょう。大阪のハリーポッタのように空間で包み込まないといけません。

「平城宮（大内裏）と言っても、草ツパラだけでは何も客に知らせられない。ポンペイは煉瓦にモザイクタイルが残っているが、日本建築は木造であり、柱の跡しか残らない。復元建物は考古学者の生きがいに貢献する。世界遺産では史跡の上の復元は禁止だが、日本は許される。」とも文化庁の課長は書いていました。

だからって、名古屋城のコンクリート天守を壊すのかい！！

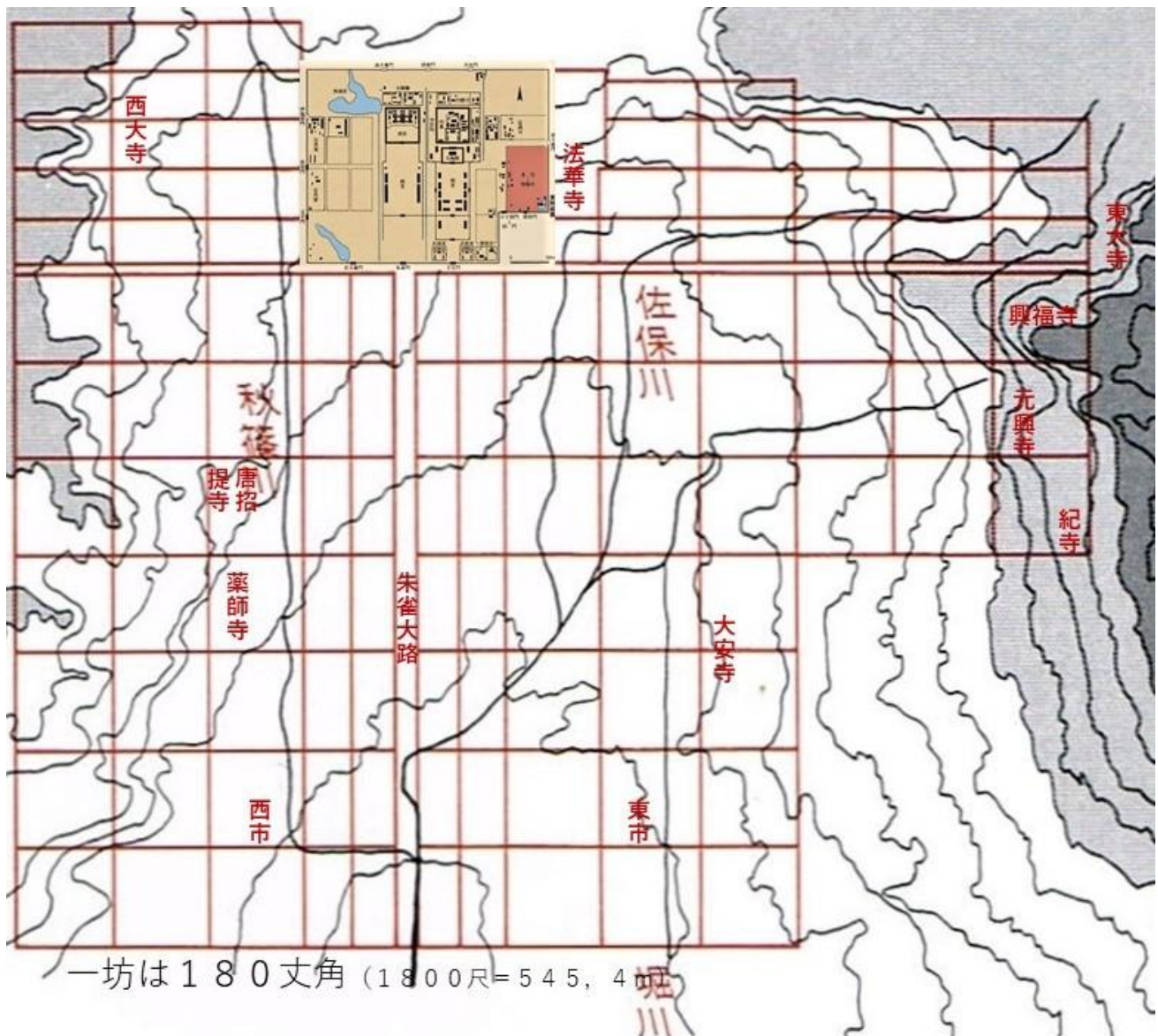
復元を考える建築屋はさぞ楽しかっただろうと、少し齧った私はわかりますし、羨ましくもありますが、考古学とは茶碗の欠片一枚から妄想する学問であり、彼らのマスターベーションの楽しさを、客に示すことは大変難しいです。

~~~~~  
そこで、復元を齧った私が、平城京テーマパークが面白くなるように、皆さんが訪ねたくなるように、書いてみます。お暇な方向けですヨ。(^^♪



のカフェ、土産物屋で無料になりますので、遣唐船をさっと見て、他の3か所ある無料の駐車場に移りましょう。

●平城京の中の大内裏、その中の内裏。大極殿は2つあった。



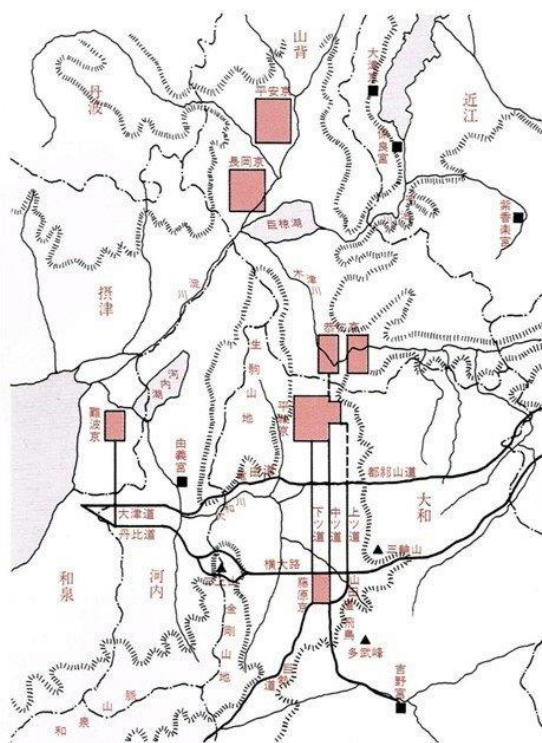
平城京の中の大内裏、その中の内裏。奈良時代前期と奈良時代後期と大極殿は2つあった。前期が朱雀大路の軸線にあっていたが、聖武天皇が戻ると、東側にそっくり作り直した。軸線はずれるが気にしていない。それより、遷宮したかったのだろう。伊勢神宮も20年毎に隣に移る。

ほいほいと聖武天皇は都を移したので、昔の掘っ建て柱の板葺きの宮か、最新式中国の石建ての大極殿をばらして移動させ、組み立てていたのか。第一次大極殿のまわりに天皇の住まいの内裏の復元はなく、掘立柱板葺きの明日香の宮のままではなかったのでしょうか。第三次大極殿になって、平安京に見られる内裏ができ、第一次大極殿は30年で消えて、そこ新たな役所？が建てられます。

いずれにしても、政府が金を出して復元した大極殿は、奈良時代前期、わずか30年しか建っていなかったのである。

現地に、こんな説明はありません。

## ●都市史における平城京の位置づけ



1 古代都城の展開

日本の都市史は藤原京から始めるが、15年であり、平城京・流転の75年、長岡京の10年と、まだプレ都市だった。

藤原京（ふじわらきょう）現在の奈良県橿原市高殿。  
 ・694年、推古天皇に次ぐ2人目の女性天皇である41代持統天皇が奈良・藤原京に遷す。持統天皇・42代文徳天皇・43代元明天皇の3代16年間続く。大和天皇のとき造宮が始まった。大和天皇が目指した律令制度の奈良は、官制制度のことで、都の成立と深い関係があり、令と都が結びついて出来上がったのが藤原京である。今まで仮宮を多岐皮宮であったが、日宮九京で焼かれた元宮の本格的な宮殿である。東西・南北ともに5.3キロ。中心には正方形の藤原宮があった。飛鳥の炭田では考えられない大きさであった。それでも北には葛城山、東には香取山、西には飯山、南には日宮山丘陵があった。朱雀大路は、幅19m、両側に5mの側溝であったが、全長は短かった。  
 ・701年8月、大和天皇（建6年・令11年）完成。  
 ・711年、藤原京完成。  
 一奈良時代一  
 平城京（へいじょうきょう）現在の奈良県奈良市在野町。  
 ・710年、43代元明天皇が奈良に遷す。大和天皇に基く新しい都。以降7代70年間、都となる。奈良時代は、中国文化を輸入し、真似た時代であった。唐の長安城と藤原京との落差解消しようとして遷都した。都の造宮は、難役という制度で強制的に奉じ、とりずた敷布で閉った。706年には、粗麻縄の床がとりずでいるので、半分は腐らず「唐雲の改革」を行っている。  
 東西4.2キロ、南北4.7キロ。朱雀大路は幅67.2m、北は朱雀門から南は羅城門まで3.7キロあった。道の両側に幅6〜7m、深さ1mの溝がある。溝ははされておらず砂質土で盛られていた。  
 ・711年、古事記完成。  
 ・717年、藤原不比等は、大和天皇により「国一郡一郷一里」にした。「郷里制」といった。  
 ・718年、聖武天皇（建10年・令10年）遷都。  
 ・720年、大和天皇の曾孫が強く入った日本書紀完成。  
 ・724年、文武天皇の第一の皇子が皇太子皇子として平城京で即位。  
 ・739年、「天皇王の定」が起る。藤原京の皇子が天皇王を確立する。遷都後、藤原京兄弟（皇弟・藤原武智麻呂、皇弟・藤原武智麻呂、皇弟・藤原武智麻呂）は出生する。738年7月、西宮が華の天皇王確立の真摯を明らかにし、後継であったことがわかる。  
 ・737年、藤原京兄弟は天皇王はやはり4人も死去する。  
 皇や後継各々。仏教によって国を治めようとする。政治と仏教の融合。盛んに寺社を建て、興福寺、東大寺、唐招提寺など40以上の寺があった。  
 ・739年、「国一郡一郷一里」になった。  
 ・740年冬、聖武天皇は突然、奈良の平城京を出て奈良の都をする。そして都を断つと移す。  
 山背藤原京（やましろのくにきょう）現在の京都府加茂町。  
 山背藤原京は、大和天皇が山背藤原京にへ。疫病多発し、仏教によって国を治めようとし、聖武天皇が仏教の建立の都を出す。政治と仏教の融合である。  
 ・743年、聖武天皇が山背藤原京に遷す。律令制度崩壊、天皇の発生を招く。  
 紫雲寺宮（しらがののみや）現在の奈良県奈良市在野町。  
 ・744年、聖武天皇は近江国甲賀郡紫雲寺村へ。  
 難波京（なにわきょう）現在の大阪市中央区法円坂。  
 ・744年、聖武天皇が難波京へ。645年、同じ場所に移ったが、再び紫雲寺宮から移ったが、平城京に戻った。しかし再び難波京にいく。  
 平城京（へいじょうきょう）現在の奈良県奈良市在野町。  
 ・聖武天皇、難波京を得て、即位した。放浪を終え、745年、再び平城京に戻る。  
 ・日本書紀の巻を算出。752年、聖武天皇の御親政を遂げる。  
 長岡京（ながおきょう）現在の京都府向日市瑞穂町。  
 ・784年、仏教、古い権力を握って50代桓武天皇が奈良・平城京から山城国乙訓郡に遷都。東西4.8km、南北5.3km。長岡京への朱雀大路が都の中心を南北に通る。右京・左京をそれぞれ4本づつ大路があった。一条大路から九条大路が東西に通っていた。785年9月、長岡京遷都中の監督が殺された。早良親王は事件に関与したとされ、食を絶て、淡路国へ遷送される途中に死んだ。桓武天皇は、後の平城天皇が生まれたことによる権威喪失事件であった。桓武天皇は主存中、早良親王の霊を恐れたいという。それで京都に遷都後、京都に東大寺がで、全国各地に東大寺が広がった。  
 一平安時代から江戸時代まで一  
 平安京（へいあんきょう）現在の京都市上京区千本丸太町。  
 ・794年、桓武天皇は、早良親王の怨霊と疫病と792年の大洪水などの理由で、長岡京から京都に遷す。以降、1075年にわたって都となる。東西4.5キロ、南北6.2キロあった。等は東寺と西寺だけであった。京内に私寺を建てることは禁じられた。

私は、平城京はプレ都市と考えています。奈良時代は75年あるのですが、前期30年、後期38年ですので、3代と続いていないのです。この前の藤原京、この後の長岡京も、唐からの仏教と律令を輸入して、日本に合わせるのに精いっぱい、初めて天皇となつた天武天皇から、天智系の桓武天皇が離脱し、藤原氏の成長と共に平安京が都として栄え、都市となったと考えます。

②平城京資料館（無料）に停めて、ここで発掘作業の地道な作業を知り、「復元建造物は往時の姿を体感できる」のく往時>ってなんだよ〜。と疑問を持ちましょう。



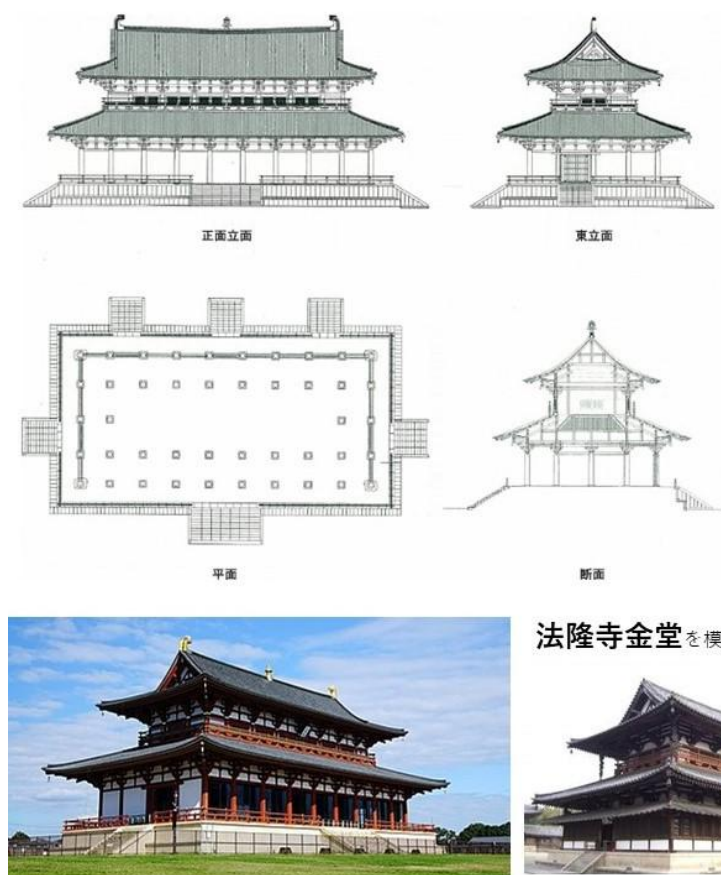
遺跡から出たものでなく、正倉院御物のレプリカです



唐招提寺講堂の模型　これぞ、解体修理による復元的研究です。手前が、移築前の大内裏にあった朝堂院。吹き放ちの中で、中庭の儀式を待ち、宴会をしたとか。  
真ん中が、壁、建具をつけ、屋根を入母屋に変えて、鑑真の為の寺として与えたものです。金堂は鑑真がなくなってから作られました。  
一番奥が、今の姿です。鎌倉時代に庇を増築し、屋根をあげ、床を増設して、僧侶が多く中に入れるようにしたのでした。

私は面白いですが、この妄想について行けましょうか。

### ③第一次大極殿の復元



建築学会ではこの復元に反対でした。関野貞が田圃の中にある小高い芝地が第二次大極殿の基壇である事を1907年(明治40年)に発表して以来、大内裏の土地収用が進められたのですが、聖武天皇の往時の姿である第二次大極殿ではなく、レプリカ朱雀門から軸線を通す第一次の復元こそ、国民に天皇親政の威厳を示されるとされたのでした。しかし、第一次大極殿の遺跡は第二次の西宮で荒らされており柱の跡も見つかりません。

大極殿正面のガラス張りの吹き放ちなど、もう笑うしかありませんが、これこそ考古学の妄想と管理しなくてはならない現代建築の融合です。

2階建てに見えますが、重層の平屋建てです。薬師寺の裳階のように庇が回っているのです。初重の9間×4間の規模はそうでしょうが、7間×2間の身舎(もや)を2重天辺まで伸ばしてその柱の周りに庇を回す単純な構造ではなく、長さ5mの初重の柱の上に、二重目の柱2.4mを載せ、二重の外観は8間×4間と構造体とは別に調整して見せています。堂々とするために、法隆寺金堂(690年頃)の架構を持ち込んだのですが、一方、外部デザインを決める組み物は法隆寺の雲形を嫌って薬師寺東塔を真似ています。

考古学は関野貞の登呂遺跡復元以来、柱の穴だけで復元をしてしまいましたが、根拠がない「復元」は、後の発見・研究により否定されるので模型にとどめおくべきだ。というのが建築学会の考えです。柱の跡からだけで、30年かけどのように復元を考えてきたかを海野さんが南門横の楼で示しています。間違っ

いると指摘する資料が私にあるはずはないですが、「復元的研究」の一つの成果であって、「復元」と言うてはいけないと思います。

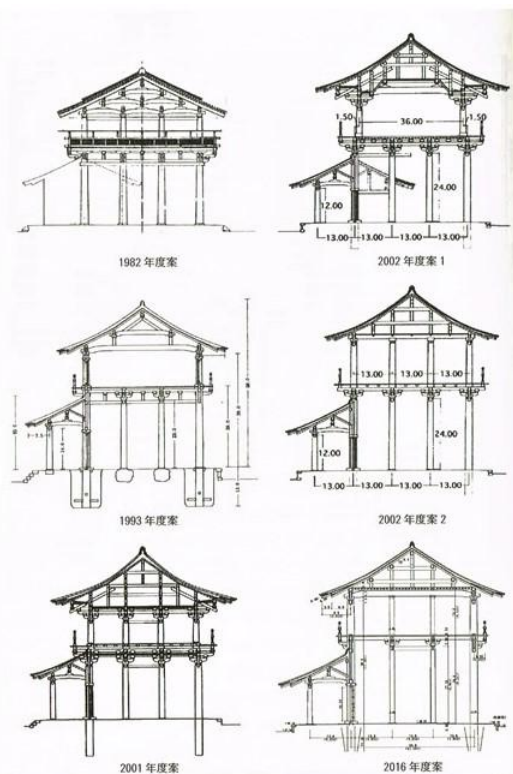


図4-3 東西楼の各復原案（奈良国立文化財研究所1982、金子ほか2003、海野2016より作成）

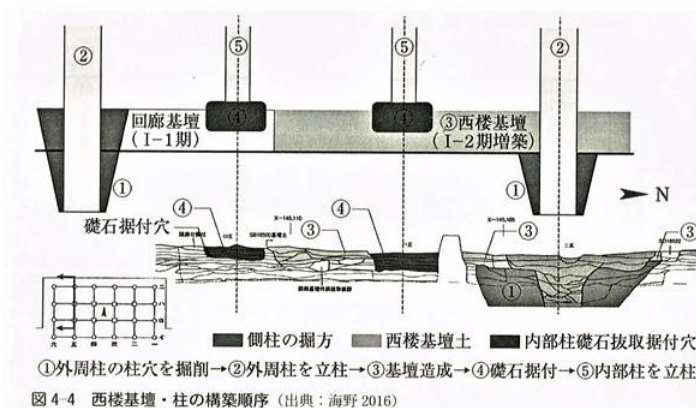


図4-4 西楼基壇・柱の構築順序（出典：海野2016）

海野聡 文化遺産とく復元学> 吉川弘文館2019年11月 現・東大准教授

海野さんが奈良文化財研究所にいた2016年の論文です。掘った柱と礎石柱の遺構だけで、アレコレ妄想し、南門とのバランスで楼の高さを決めています。



薬師寺 左から講堂、金堂、東塔、西塔金堂は縁起に、二重二閣、5間四面、瓦葺き、各階裳階付き、とあるだけです。「竜宮造り」と言われたのを残っている東塔のデザインと、法隆寺金堂3間四面をもとに復元的研究がされました。

薬師寺東塔は730年と、第一次大極殿より後に作られたことが今回の解体修理で明らかになりました。藤原京からの移設でな

いからと言って、藤原京と同じ姿でないとは言えませんが、わずか100年の間に、飛鳥時代・法隆寺→白鳳時代・薬師寺→天平時代・唐招提寺の組み物の発展があったと考えるには変化が大きすぎます。唐の長安には何れの様式も混在しており、来日した工人による差だと私は考えています。日本人に様式を発展させる力はなく、仏像様式の差も渡来ルートの差ではないでしょうか。

#### ④特別名勝 東院庭園

1967 年発掘初期に、巨大な州浜式の池が出てきて大騒ぎになり、朱雀門大垣と共に 2000 年に早々に竣工させ、2010 年に文化庁は特別名勝に指定しました。「日本庭園の元祖」という触れ込みですが、森蘊（1905-1988）先生亡きあとのことであり、いかながなものでしょうか。

日本庭園の継続には植物の成長を止め水の始末が必要であり、夢窓疎石による多治見の名勝・永保寺も、ほっておくと天竜寺・苔寺になってしまいます。



60mの州浜は確かに凄いのですが、法隆寺の伝法堂の前身の住宅を真似た建物は大きく重く、玄宗と楊貴妃が遊んだ庭に比べれば、池がまだまだ小さいと思えます。

隅にある楼閣ですが、なんと変なデザインであることよ。柱の跡から多層だと復元するのですから古代建築の復元は、安土城の復元からすると夢想としか思えません

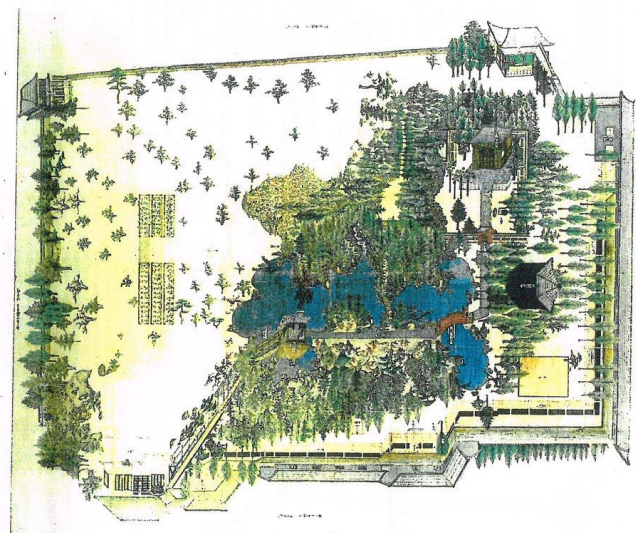




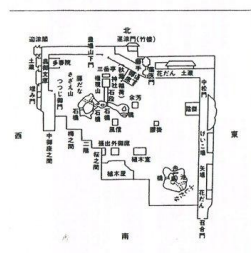
左は森蘊によって再現された平泉の毛通寺。庭石は出土したのを組みなおしています。

平安時代の浄瑠璃寺、宇治の平等院、森蘊によって再現された平泉の毛通寺と比べて、楊貴妃の庭の部分どりの感じがしました。

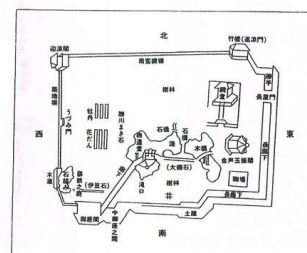
名古屋城二の丸庭園も名勝に指定されましたが、当初の明様式の大名庭園を、養子に來た殿様が数寄屋の庭にしてしまい、明治になって陸軍が建物を作り、将校慰安の庭にしています。発掘して大名庭園の跡を見付けたと喜んでいますが、今も二の丸庭園なのです。庭にまで「往時の姿の再現」は無用な事であり、江戸城の二の丸庭園を真似ればよい事だと思います。



名古屋城 二の丸



2 御城御庭絵図  
江戸時代 十九世紀  
名古屋藩主左文庫蔵  
尾張藩十代藩主が文庫御殿（八〇年頃）に改築したの丸御庭の絵図である。初代藩主時代の庭に比べ、さまざまな樹木・花木が植えられ、数寄屋・茶室などの建物が点在し、いわゆる和風の庭園に作り変えられている。佐藤



1 中御幸之間北御庭絵図  
江戸時代 十七世紀  
名古屋藩主左文庫蔵  
尾張藩川本初代藩主が尾張藩主名古屋城の丸御庭のうしろの室・中御幸之間に北の丸を築いた絵図である。裏が八の字の形跡の跡である。佐藤

### ⑤遺構展示館

内裏の直ぐ東にある太政官ではないかという建物の遺跡の上を覆って、遺跡そのものを見せています。推定ですが、75年の平城京の間に、掘ったてで4回建て替えているということは、なんなのでしょう。塼（せん）という巨大煉瓦が外部の床に敷き詰められていることから特別の役所すなわち太政官だとの推測です。これを根拠というのでしょうか。考古学とは気楽な学問です。



隣には、「推定宮内省」が復元されており、その内部のしつらいがコチラに作ってあります。窓がない白い壁に檜皮葺など、生活はしにくく、金がかかりすぎではないでしょうか。



築地塀は、板築しての瓦屋根ですので、そうは作ってなかったでしょう。写真の築地塀にぶつかる壁は板葺きですが、こんな飛鳥板葺きの宮と変

わらない姿が平城京のほとんどの建物だったと私は思います。

ただし、24 もの寺に大内裏と、朱塗りと瓦が飛鳥時代に比べ大変多くあり、それが「あおによし」と思っています。4 k m四方の平城京は道だけで役人の住宅では埋まっていなかったのではないのでしょうか。

聖武天皇は、あれだけホイホイ遷都ができたのですから、簡単にばらして移動できた建物だったのだと、ええ都のベースは、まだ飛鳥時代の雰囲気を持ったままだったと思っています。



続日本書記しか歴史書はないですが、長屋王の木簡をみると、天皇の代わりの執政官が倭（ヤマト）の親分として自宅でなんでも処理していて、律令制度による公家の稟議などなく、だからたびたび重臣の間で政変が起きえたのだと思います。

平安京の初期の姿が文書と遺跡で見えてきたので、それ以上の都であるはずもないでしょう。400 年後の平安時代末期の「年中行事絵巻」から持ってきた建築の姿が目立ちました。

奈良文化財研究所は、平城京を実際以上に律令制が有効に働く、立派な都とし、天皇の権威を高めるように復元的研究を行っているのではないかと、思いました。